

タイトル	著者名	内容紹介
カケラ	湊 かなえ	美容クリニック医師の久乃は、同級生・八重子の娘が亡くなったことを知る。人気者だったという少女に何が起きたのか。美容整形をテーマに、容姿をめぐる固定観念をあぶりだす心理ミステリ長編。
きたきた捕物帖	宮部みゆき	岡っ引き見習いの北一は、亡くなった千吉親分の本業だった文庫売り(本や小間物を入れる箱を売る商売)で生計を立てている。やがて自前の文庫をつくり、売ることができると夢見て…。
じんかん	今村 翔吾	ある晩、織田信長のもとに、忠誠を尽くしていたはずの松永久秀が、二度目の謀叛を企てたという急報が。だが信長は笑みを浮かべ、かつて久秀と語り明かしたときに直接聞いたという壮絶な半生を語り出す。
わたしの美しい庭	岡良 ゆう	統理と小学生の百音はふたり暮らしたが、血のつながりはない。二人が住むマンションの屋上には断ち物の神さまが祀られている。悪いご縁を断ち切ってくれるといい、“いろんなもの”が心に絡んでしまった人がやってくるが—
流人道中記 上	浅田 次郎	罪を犯した旗本・青山玄蕃に、奉行所は青山家の安堵と引き替えに切腹を言い渡す。だがこの男の答えは「痛えからいやだ」。玄蕃には流罪判決が下り、押送人の乙次郎とともに、奥州街道を北へと歩む。
流人道中記 下	浅田 次郎	口も態度も悪い玄蕃だが、道中で行き会う、事情を抱えた人々を見捨てぬ心意気があった。旅路の果てで明らかになる、玄蕃の抱えた罪の真実。武士の鑑である男がなぜ、恥を晒して生きる道を選んだのか。